

栃木県畜産酪農研究センターだより

第25号 令和3(2021)年11月

トピックス

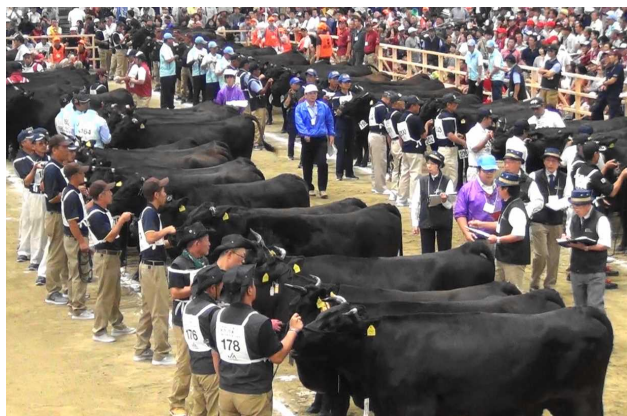
来年、第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会が開催されます。

令和4年10月6日～10日にかけて、5年に1度の和牛の全国大会が鹿児島県で開催されます。本大会は、和牛の魅力について、肉質だけにスポットを当ててではなく、種牛の改良技術や効率的な肥育技術、地域の特色ある牛づくりなど様々な角度から評価、競い合い、発信する特別な大会です。

栃木県からは、第2区（若雌14～17か月齢）1頭、第3区（若雌17～20か月齢）1頭、第4区（3産以上の繁殖雌牛群）1群3頭、第8区（24か月齢未満の去勢肥育牛）2頭、特別区（農業高校の14～20か月齢の雌牛）1頭の、計8頭が出品予定で、本年9月から本格的に出品牛の選畜や支援が始まりました。

当センターでは、主に第8区（肥育牛）候補牛の飼養農家を関係機関と連携して巡回し、超音波肉質診断や血液分析を定期的実施していきます。超音波診断画像や血液成分をもとに発育状況や健康などのチェックを行い、出品候補牛の飼養管理に役立てていく予定です。

これらの支援を実施するとともに、各農家においては飼養管理、観察を十二分に行っていただき、来る鹿児島大会では良好な成績を収め、栃木県の実力を全国に発信できるよう、一丸となって頑張りましょう！



第11回宮城大会の様子



超音波肉質診断の様子

(肉牛研究室)

トピックス

防疫の強化！豚舎毎に更衣スペースを設置しました！

これまで当センターでは、豚舎に入る際、各豚舎専用の白衣を作業着の上に着用し管理作業を行っていましたが、近隣での豚熱発生を受け、豚舎毎に着替えるという指導手引きの文面どおりに対応するため、豚舎内に更衣スペースを手作りで設置しました。カーテンやカゴ、建具に3万円ほどかかりましたが、棚の材料などは極力既存のものを活用し、低額で各豚舎に設置できました。



繁殖豚舎入口



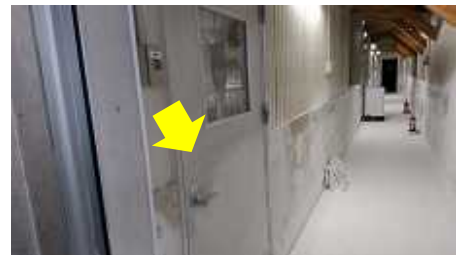
更衣スペース入口



更衣スペース（カーテン奥は女性専用）



通路入口



豚房入口

更衣スペースの確保で悩んでいる生産者の方もいらっしゃると思いますが、万が一不幸な事態が発生した場合、一番被害を受けるのは生産者ご自身です。

私たちセンターも、豚を飼養するものとしてみなさんと同じ気持ちです。みんなで頑張って規準を遵守し、今の困難な状況を乗り切っていきましょう！

（養豚研究室）

技術情報

イタリアンライグラスの奨励品種が決定しました！

作業性や良質サイレーシ確保のためには、収量が多くて倒伏しない品種が優良品種と考えます。3年間の品種選定試験の結果、早生ではタチマサリ、ライジン、ゼロワン、中生ではタチムシャ、さつきばれEX、中晩生ではフウジンが県の奨励品種(●)に指定されましたので、作付けを勧めていきます。(図1、2)

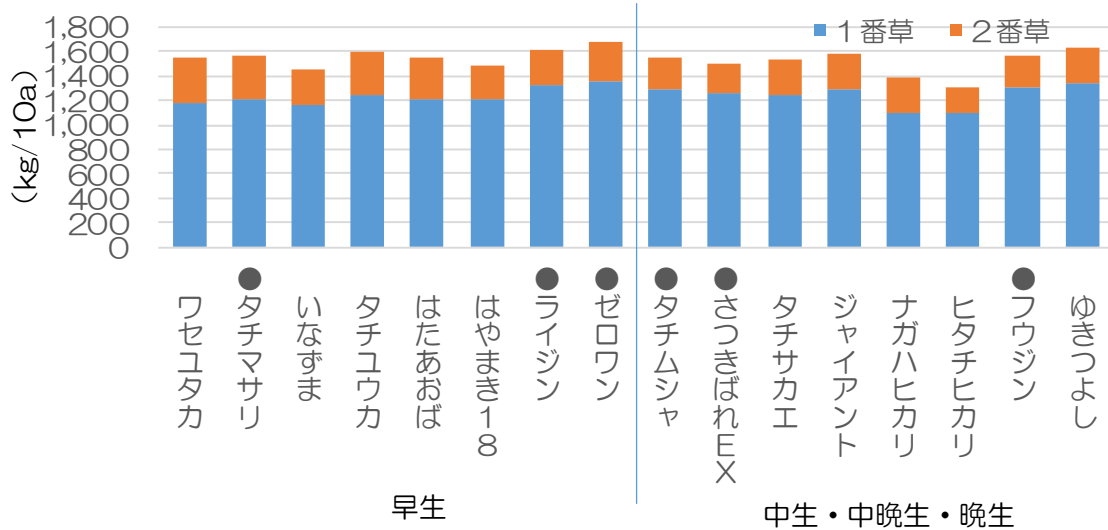


図1 品種ごとの乾物収量(3年間(R1~R3)の平均値)
 播種日10月上旬、施肥量N-P₂O₅-K₂O:10-10-10 kg/10a、堆肥3 t/10a

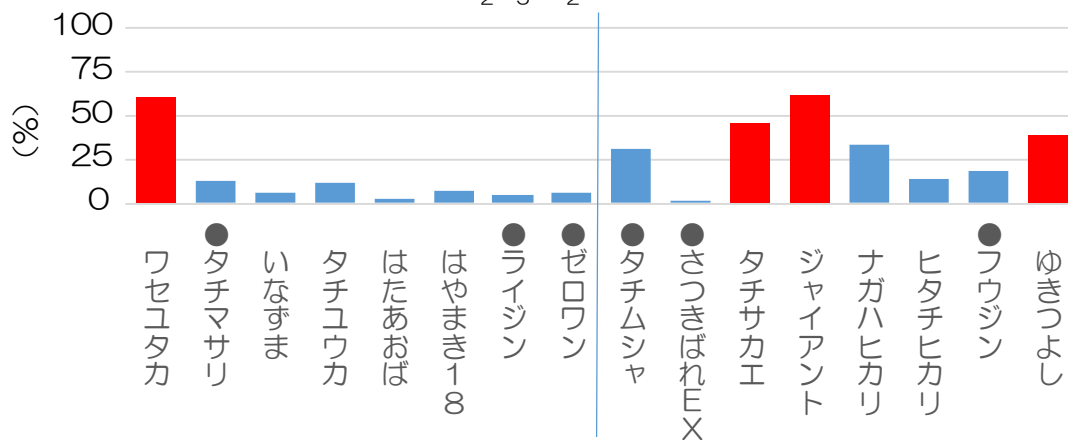


図2 品種ごとの倒伏程度(3年間(R1~R3)の平均値)
 0%:倒伏無~100%:全面倒伏



タチマサリ
(早生)

ライジン
(早生)

ゼロワン
(早生)

タチムシャ
(中生)

さつきばれEX
(中生)

フウジン
(中晩生)

(草地飼料研究室)

イベント情報

畜産関係研究セミナー（環境部会）を開催しました！

10月21日（木）、当センターにて、畜産関係研究セミナー（環境部会）を開催しました。

県内の畜産経営に起因する苦情のうち約6割を悪臭が占めていますが、臭気は発生場所等の特定が難しく、その対策に苦慮しています。

今回は農業振興事務所の普及指導員を対象に、当センターで開発した「臭気マッピング手法」によるニオイの見える化技術習得の研修を行いました。

今後も、現地への技術移転を進め、生産現場における畜産環境改善指導を支援してまいります。



※草地飼料部会については、8月10日（火）に「飼料用トウモロコシの現地検討」などを行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、中止となりました。

なお、関係機関には解説用の動画を作成し、資料と共に配布しました。

トピックス

「宇都宮大学コラボレーション・フェア」に出展しました！

9月1日（水）、第2回宇都宮大学コラボレーション・フェアに出展し、当センターで実施している試験研究の紹介を行いました。

このフェアは、オンラインで開催され、宇都宮大学や県内企業などが実施する取組等について、それぞれの機関から発表が行われました。

当センターからは、「地域特有のチーズスターターの開発」や「畜産環境対策のための臭気マッピング手法の開発」などについて発表を行い、チーズ製造に対する質問が出るなど、関心の高さがうかがえました。

トピックス

「つなごう！とちぎの食と農実践講座」で酪農・和牛について 講義を行いました！

9月21日（火）、つなごう！とちぎの食と農実践講座で「「とちぎの酪農や和牛」を知って美味しく味わおう」のテーマで講義を行いました。

本講座は（公財）栃木県農業振興公社が主催し、県内の消費者等を対象に本県の農産物に関する講座を計4回実施しているものです。

今回の第1回には県内の消費者約20名が出席し、当センター研究員から乳牛の品種、チーズが作られる仕組みや牛肉のおいしい食べ方などについて講義を行いました。



新任ご挨拶のつづき

「豚を飼ってるのに豚熱の動員に行くってやばくね？」

と、ある関係者のお言葉。まったく仰るとおりですが、今回の発生規模はそんな家畜衛生の常識論など通用しない災害レベル“鬼”の大惨事ですし、仮にも畜産を名乗る機関として汗をかかない選択肢はありませんでした。しかし動員は養豚担当以外の職員で回さねばならず、さらに防疫対策として動員者には24時間の自宅待機（ダウンタイム）を設定し出勤者は半減、一方養豚担当はウォールシーナに紙眼の術をかけるがごとく連日豚を死守するなど、当所ならではの厳しさの中、殺処分の現場では、職員全員が家畜の扱いに慣れていることや機械の操縦が可能な職員も多いことから、畜産の名に恥じぬ対応ができたことは自慢できると思っております。でも次は無いことを祈ります。もちろんうちも含めて。

（畜産酪農研究センター所長 脇阪 浩）

「畜産酪農研究センターだより第25号」 令和3（2021）年11月8日発行
栃木県畜産酪農研究センター

〒329-2747 那須塩原市千本松298 TEL：0287-36-0280

センターHP <http://www.pref.tochigi.lg.jp/g70/index.html>